

投資家の皆様へ

2018年2月期決算の「当期純利益」が業績予想に満たなかった理由について

2018年4月13日に開示いたしました2018年2月期の決算（以下「本決算」）において、当期利益が当初の会社予想に対して達成しなかったことに関し、多くの株主の方からお問い合わせを頂きました。また、4月20日の決算説明会にてその理由を下記のとおりご説明申し上げたことをご報告いたします。

記

状況

弊社インベストメントベンチャー事業として、株式上場を目指すことができる優良ベンチャー企業に対し投資を行っております。本決算では、投資ポートフォリオの内10件で、総額293百万円の投資有価証券評価損を計上しました。ベンチャー企業の中には、先行投資段階で、当初より赤字を計画しており、それらの企業においては事業自体が失敗している訳ではありません。一方で投資元の弊社では会計的な評価及びその処理が求められ、今回の件に至りました。ただし、投資そのものが失敗している訳ではなく、あくまでも会計処理の問題と考えております。

投資有価証券評価損とは

非上場企業の投資有価証券評価では、時価評価が困難なため、一株当たりの純資産を基準にした評価を行うことが一般的です。多くのベンチャー企業では、事業を拡大するための先行投資等で費用計上を行い、結果当期純損失を計上することがあります。投資元ではその結果を受け、一株当たりの純資産に対して著しい毀損があった場合に減損処理を行い、純資産相当額まで帳簿価格を引き下げ、投資有価証券評価損を計上します。投資事業を多く行う会社では、常に起こりうる事象です。

経緯及び、弊社の考え

1. 計画上は当期純利益は達成見込みでありましたが、開示確定の前日に監査法人から総額で293百万円の投資有価証券評価損を計上するべきとの指摘を受け、今回の結果となりました。
2. 今回指摘を受けた投資先の中には、ベンチャー企業として賞を受賞する等、将来的に上場を目指すことが出来る優良企業も数社含まれております。
3. 会計上は損失を計上しておりますが、投資自体が失敗している訳ではなく、将来的に回収を見込んでおります。

以上

今後の対策

1. 投資先の中には管理体制が脆弱な企業もあり、弊社への報告が遅かったため、今後は同じ結果を繰り返さないよう投資先各社に対して、事前の手配を行っていきます。
2. 投資先各社の評価予測を早期に行うことで、評価損を事前に検知し、対策を講じます。

ベンチャー企業への投資を今後も積極的に行うため、投資有価証券評価損が今後も発生する可能性があります。事業活動開始後約2年で6社の投資先が株式上場を果たし、インベストメントベンチャー事業は順調に拡大しております。

2018年2月期では、営業利益は前年同期比137.2%、経常利益は143.8%と順調に推移しており、事業そのもの自体は何ら問題なく、来期に向けて加速的な成長を実現するよう日々邁進しております。

【報道関係者からのお問い合わせ先】

株式会社ベクトル IR 担当：山本・山田

TEL：03-5572-6080 / FAX：03-5572-6065 E-MAIL：ir@vectorinc.co.jp

※本リリースをお送りさせて頂いている皆様の個人情報は、株式会社ベクトルの個人情報保護方針に基づいて、厳重に管理させて頂いております。
今後、弊社からのニュースリリースの配信を希望されない方は、恐れ入りますが privacy@vectorinc.co.jp までご連絡をお願い致します。